

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワクワクひろば		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 12 月 7 日		～ 令和 7 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 月 25 日		～ 令和 7 年 2 月 8 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 2 月 18 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ソーシャルスキルトレーニングに特化した活動プログラムを提供していること。	・教材を用いて、「気持ち」に焦点を当てた話し合いをしたり、問題解決や落ち着くための方法を子どもたちと話し合っている。 ・自分の頑張ったことや、日常で不満に思ったことなど、気持ちを話せる場の提供に努めている。	職員の支援者としての知識・技能を高める取り組みを行っていく(外部の研修会の参加、他施設への見学、内部研修など)。
2	保護者との連携や情報共有、研修の機会の提供などに力を入れていること。	・利用終了後の保護者への引き継ぎ時間を必ず設定し、利用児と一緒に活動の振り返りを行い、できたことや反省点等を共有している。 ・親子行事・保護者会・ペアレントトレーニングを開催している。	保護者会や面談(モニタリング等)の際に、利用児の活動の様子がより分かるもの(写真や動画等)も提示できるよう、事前の準備を図る。
3	利用児(1日定員10名)一人ひとりに、担当のスタッフを配置し、より丁寧な支援の提供に努めていること。	・利用児1～2人に対して、必ず職員1人が担当者として配置できるようにしている。 ・利用児の好ましい行動をすぐに褒めたり、問題が起きた時にすぐに対処できたりするようにしている。	毎回サービス提供後に終礼を行い、その日の利用児の行動やコミュニケーションの様子を細やかに共有し、よりよい対応や声かけを模索し、実践していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動中の様子を、保護者の方に見ていただく機会がほぼ無い。	・サービス提供時間が2時間と、短い時間で設定しているため。 ・利用日が土曜日のみで、かつ、月2日(高学年が第1・3土曜日、低学年が第2・4土曜日)のみと、開所日が限定されるため。	・いつでも見学ができることを保護者の方に周知していく。 ・「参観日」のように、保護者の方が見に来てよい日を、事業所として設定することを検討する。
2	保護者会や親子行事は定期的で開催しているが、きょうだい向けのイベントは開催していない。	平日は児童発達支援の提供に充てていること、かつ、土曜日は放課後等デイサービスの開所で、その他のイベントを開催する準備や時間が限られる。	・利用中の保護者の方々に、どれだけきょうだい向けのイベントのニーズがあるのかを把握する。 ・第5週の土曜日は放課後等デイサービスを開所していないため、そういった日を活用できないか検討していく。
3	事業所として主催する、放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会はない。	・サービス提供時間が2時間と、短い時間で設定しているため。 ・利用日が土曜日のみで、かつ、月2日(高学年が第1・3土曜日、低学年が第2・4土曜日)のみと、開所日が限定されるため。	事業所近くの公園遊びの日を設定したりしながら、地域の子と関わる機会を得られそうな活動も取り入れていく。